

製品名: DUSP6 (9T14) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe10205**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:200,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:20-1:50,IP 1:20-1:50
分子量	42kDa

抗原情報

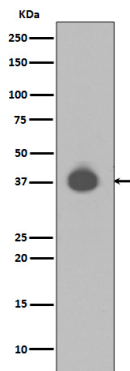
遺伝子名	DUSP6
別名	HH19; MKP3; PYST1; DUSP6; DUSP6a; Dual specificity phosphatase 6;
遺伝子 ID	1848.0
SwissProt ID	Q16828
免疫原	ヒト DUSP6 の合成ペプチド

背景

MAP キナーゼは、基質特異性、組織分布、細胞外刺激による誘導性、細胞局在が異なる二重特異性タンパク質ホスファターゼ (DUSP) によって不活性化されます。MAPK ホスファターゼ (MKP) としても知られる DUSP は、MAPK P ループ内のトレオニン残基とチロシン残基の両方を特異的に脱リン酸化します。MAPK ファミリーの機能制御において重要な役割を果たすことが示されています。このファミリーの少なくとも 13 のメンバー (DUSP1-10、DUSP14、DUSP16、および DUSP22) は、様々な MAP キナーゼに対して独自の基質特異性を示します。MAP キナーゼを不活性化します。ERK ファミリーに特異性があります (PubMed:9858808)。術後慢性疼痛の緩和に重要な役割を果たします。末梢手術によって誘発される脊髄 MAPK1/3 および MAP キナーゼ p38 の長期リン酸化型の正常な脱リン酸化に必要であり、術後急性アロディニアの消散を促進する (類似性による)。また、局所創傷組織における MAPK1/3 の脱リン酸化にも重要であり、急性疼痛の消散にさらに寄与する (類似性による)。MAPK1/MAPK3 活性を調節し、AP1 転写因子の発現を調節することにより、細胞分化を促進する (PubMed:29043977)。

研究分野

画像データ



NIH/3T3 細胞溶解物における DUSP6 発現のウェスタン ブロット解析。